

教師用 指導案

1. 授業名

テーマ1 パラリンピックの価値

授業5 「パラリンピアンの日常生活からバリアフリーを考える」

2. 授業の目標

- ・車いすのパラリンピアン（パラリンピックに出場したことのある選手）の日常生活に思いを巡らせることにより、バリアフリーのあり方を考える。
- ・障害の有無に関わらず、他者に対する先入観（思い込み）に気付き、相手との違いを知り、対話を尊重することの大切さを学ぶ。そして、学習したことをもとに自分の行動に移すことができるようになる。

3. 本時の位置づけ

- ・中学校の「総合的な学習の時間」、高等学校の「総合的な探究の時間」における事例学習として活用。
- ・中学校では、社会（公民）の「基本的人権」、道徳の「他者の理解」「共生社会」などの単元における事例学習として活用。
- ・高等学校では現代社会、政治・経済での「基本的人権」「社会保障」、家庭科の「共生社会と福祉」「住生活と住環境」、または情報の授業における事例学習として活用。
※その他、学級活動や学年集会などの時間に活用してもよい。

4. 指導上の留意点、工夫点

- ・車いすユーザーの中にも、障害の種類や度合い、能力や経験の違いがあり、小さな段差なら自分で越えられる人とそうでない人がいるなど、それぞれ状態もニーズも違うことを理解したうえで、障害の有無に関わらず、その人に主眼をおいたコミュニケーションをする必要があることを伝えられるとよい。
- ・何らかのバリアがあった場合、できないから仕方がないとするのではなく、なんとか解決策を考えようとする態度も育てたい。

「主体的・対話的で深い学び」を目指すために、Think Pair Share の活動を取り入れています。

T Think…一人、グループで考える。

P Pair…隣の人と意見交換する。

S Share…発表を通してクラスやグループのみんなと考えを共有する。

5. 準備物

- ・授業用シート（紙芝居）（中高 1-5）
- ・教師用ガイド（中高 1-5）
- ・生徒用ワークシート①②③（中高 1-5）
- ・映像資料：パラリンピアンからのメッセージ



〈展開案〉※【 】内は経過時間

時間	学習活動 ○生徒の活動 (引き出したい生徒の声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
導入 (5分) 【5分】	<p style="text-align: center;">パラリンピアンが学校に来る！</p> <p>○マセソンさんの人物像を知る。</p>	<p style="text-align: center;">授業用シートP. 3・4</p> <p>○マセソンさんを紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業用シート（中高 1-5） ・教師用ガイド（中高 1-5）
展開① (5分) 【10分】	<p>T</p> <p style="text-align: center;">車いすユーザーの事例を通して社会の中にあるバリアを考える</p> <p>○階段や坂道、学校の昇降口など、身の回りのバリアを考える。</p> <p>○スロープとエレベーターがバリアフリーでなくなってしまうのは、どのようなときかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スロープの上り口に障害物があると、車いすが通れないのではないか。 ・エレベーターは混んでいると乗れないのではないか。 ・車いすに乗っていると、エレベーターの場所を見つけづらいのではないかな。 	<p style="text-align: center;">授業用シートP. 5</p> <p>○車いすユーザーのマセソンさんが駅から来校する際、町や学校でのバリアについて、考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">授業用シートP. 6・7</p> <p>○バリアフリー設備であるスロープとエレベーターについて、どんなときに機能しないのかを考えさせる。 ※数人を指名して意見を発表させる。</p> <p style="text-align: center;">授業用シートP. 8～10</p> <p>○バリアフリー設備が機能しない事例を紹介する。</p> <p>【スロープ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スロープの近くに自転車などの障害物があると、利用できない。 <p>【エレベーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすユーザーは目線が低いため、人混みの中では、エレベーターの場所がわからない場合がある。 <p>【点字ブロック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンを見ながらでもまっすぐ歩けるように点字ブロックを利用する人がいる。 <p style="text-align: center;">授業用シートP.11</p> <p>○「施設・設備」面でのバリアフリーが進んでも、これだけではバリアがなくならないことを伝えて、次へつなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業用シート（中高 1-5） ・教師用ガイド（中高 1-5）

時間	学習活動 ○生徒の活動 (引き出した生徒の声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
<p>展開② (18分) 【28分】</p> <p>個人作業5分 グループで共有8分 発表・解説5分</p>	<p>T/S 自分たちの中にあるバリアについて考えよう</p> <p>○〈シーンA・B〉のコマ漫画を見て、感想や考えたことをワークシートに記入する。</p> <p>○感想や考えたことをグループ内で発表する。</p> <p>○全体で発表する。</p> <p>○自分たちに、障害がある人への先入観があることに気付く。</p> <p>・A:白杖(白い杖)を持った人は、いつも困っていると思っていたけれど、それはわたしたちの偏見だったみたいだ。</p> <p>・B:手分けしようと言っているのに、車いすの人を数に入れないのはおかしいと思う。</p> <p>・B:車いすの人を意識し過ぎるのがいけないのではないかな。</p>	<p>授業用シートP.12～15</p> <p>○授業用シートP.12を出して、ワークシートを配布。AとBの漫画を読ませたあと、各自の感想や考えたことを記入させる。</p> <p>※授業用シートP.13～15の使用は任意。生徒の状況に合わせて内容を確認するためなどに使用する。</p> <p>※感想が書けない生徒には、授業用シートP.15の「何でこうなった?」「どうすればよかった?」「おやっ?と思ったことは?」の3点に注目して、意見が書けるように助言する。</p> <p>○グループ内で考えを共有させたあと、左記のような感想を持った生徒を中心に数名に全体発表させる。</p> <p>授業用シートP.16・17</p> <p>○発表の後、身につけたい視点を解説する。 →「先入観」というバリアについて、気付かせる。</p>	<p>・授業用シート(中高1-5)</p> <p>・教師用ガイド(中高1-5)</p> <p>・生徒用ワークシート①(中高1-5)</p>
<p>展開③ (16分) 【44分】</p> <p>グループで共有10分 発表・解説6分</p>	<p>T/S 身近なシーンで考えてみよう!</p> <p>○1枚の絵(コマ漫画)を見て、絵の吹き出しに入れる言葉をグループで考え、ワークシートに記入する。</p> <p>・れいは、どちらのお店がいい?</p> <p>・階段しかないときって、いつもどうしているの?</p> <p>・【理由】こう考えたのは、れいちゃんの見解が聞き取れなかったから。</p> <p>○全体で発表する。</p>	<p>授業用シートP.18・19</p> <p>○展開②を踏まえたうえで、〈あなたなら何と言う?〉の吹き出しに入る言葉と、なぜそのように思うのかをグループで考えさせる。</p> <p>○グループ毎に発表させる。</p> <p>授業用シートP.20</p> <p>○よかれと思って、先入観で行動を限定してしまうのではなく、まずはコミュニケーションをとって、選択肢を一緒に考えることが大切であることを理解させる。</p>	<p>・授業用シート(中高1-5)</p> <p>・教師用ガイド(中高1-5)</p> <p>・生徒用ワークシート②(中高1-5)</p>

時間	学習活動 ○生徒の活動 (引き出した生徒の声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
<p>まとめ (6分) 【50分】 映像4分 解説・感想記入 2分</p>	<p>T</p> <p>○映像資料を見る。</p> <p>○感想をワークシートに記入する。</p>	<p>まとめ</p> <p>授業用シートP.21・22</p> <p>○映像資料を見せて、先入観がバリアであることと、障害の有無に関わらずコミュニケーションをとって、選択肢を一緒に考えることが大切であることを再確認させる。</p> <p>○「施設・設備」と人々の「意識・態度」「制度」「情報」「慣習」などが相まって真のバリアフリー社会が築かれること、これを象徴するのがパラリンピックであることを伝え、本時のまとめとする。</p> <p>○授業の感想をワークシートに書かせる。 ※時間がない場合は、感想を宿題にしてもよい。</p> <p>・障害理解教育や共生の概念を育む学習の際「困っている人を助けてあげましょう。」と締めくくってしまうと、「障害がある人は、常に困っている人」と偏見を助長する恐れもあることに留意する。「困った時に支え合うのはお互い様。それが当たり前で、障害があるかどうかは関係ない」という考え方を育みたい。</p> <p>・人々には様々な違いがあるという大前提があり、元々の条件に差があるかもしれないという視点で、これまで当たり前が存在してきた物やサービス、環境を観察して、社会が生み出している「障害」に気づけると素晴らしい。</p>	<p>・授業用シート (中高1-5)</p> <p>・教師用ガイド (中高1-5)</p> <p>・映像資料： パラリンピアンからのメッセージ</p> <p>・生徒用ワークシート ③ (中高1-5)</p>